

食札のメッセージと『鳥獣りは』

～入院中に描き始めた絵～



2015年秋の朝、私はジョギング中に脳出血（左被殻）を発症、右半身に麻痺を生じて武蔵野赤十字病院に入院しました。健康だと思っていた自分が、全く知らなかった救急医療の現場に、突然患者として身を委ねることになったのです。この日を境に、私のそれまでの日常生活と考え方は全く違うものになりました。三週間後、私は武蔵野陽和会病院に転院しました。まだ車椅子に乗った状態でした。この病院では病棟もリハ室も明るい雰囲気だったので、私もすぐに打ち解けて毎日一緒にリハをすることができました。一方、リハの傍らで絵を描き始めました。僅かずつ動くようになった右手で筆ペンを使い、ベランダの草花などを描きました。



ある日、食事のお膳にハロウィンのメッセージカードが乗せられていました。きっと栄養士の方が作ってくれたのでしょう。私は嬉しく思い、食札の余白にお礼のメッセージと絵を添えて返すようになりました。病院で苦楽を共にする皆に宛てたつもりでした。毎食の食札に続けるうち、右手指にも少しずつ力が入り始めたのか、最初はぎこちなかった鳥獣

たちも、徐々に自由に動き回るようになりました。

次に私はリハの様子を描きたくになりました。改めて見た病棟とリハ室には、ひたむきにリハする患者たちの姿がありました。そして、いつも横には家族、明るく励ます医師や看護師、介護士、療法士、病院職員の方々がいました。みんな大変でした。それでも、ひとりひとりが「よくなるう」と強く願っていました。患者の誰かが少しでもよくなると皆が喜びました。それはユーモアと笑いが



ある景色でした。その姿は、いつも食札に描いていた鳥や獣たちのひたむきな姿に重なって見えました。それが「鳥獣りは」の始まりです。

発症から5か月、私は2016年3月に退院しました。自力で歩けるまでには回復していたものの、元の体に戻れたわけではありません。建築士としての仕事を縮小し、リハを続けながら絵を描き続けています。「鳥



獣りは」はその後、雑誌掲載から「リハビリ手帳」の挿絵、学会等での発表、2019年秋には書籍として出版されるまでに至りました。

退院から3年以上が経った今も「鳥獣りは」の故郷である武蔵野陽和会病院をときどき訪れては当時のことを振り返り、皆さんに感謝しています。

2019年
「みんなよくなれ 鳥獣りは」
村越正明 文・画 (株)三輪書店

